



聞けば聞くほど、次から次に！ アンケート、組合会議 先生足りない、でも仕事は山ほど、今いる先生で支える

市教委からはなかなかオープンにはしない、枚方全体の教員不足の実態。

組合の会議や、アンケート実施で、聞けば聞くほど、次から次に、教員不足の中で、必死で現場の先生たちの負担と犠牲で、かろうじて学校の教育活動が支えられている実態が浮かび上がってきています。

- 1学期末～2学期に、年度途中の教諭、講師の先生の病休が増えているだけでなく、退職に至る学校もいくつか出てきている。小中とも。
- 病休、育産休の代わりに常勤ではなく、非常勤を配置している学校が、増えてきている。
- 病休、育産休の講師が来ずに、担外の先生、生徒指導、教務、教頭なども入って何とか回している。
- 講師の先生も教職未経験で来られる人や70代で来られる人もいて、本人にも周りの先生も対応や配慮がより必要になってきている。

大変な現状でも、「ほかの学校聞いていると、うちはまだマシなのかと思う」！？ 部活動地域移行、枚方は遅すぎる

2名欠員の学校の先生、「支援や配慮の必要な子どもも多く、毎日教室飛び出す子どもの対応で空き時間もない状態。」と言いながら、「ほかの学校の状態聞いているとうちはまだマシなのかと思う」

3名の欠員の中学校では、「残りの先生たちで無理して持ちこたえ、行事続きの中で、残りの先生たちも体調崩壊していき、さらに少ない先生で毎日の授業、学級対応こなさざるを得ない状態が続いている。」

中学校の先生たちは、欠員の負担を支える中でも、部活動、休日の練習、試合引率(信販・試合運営含め)、どんなにしんどくても、行かざるを得ないのが現実です。

「他の市や都道府県では、もっと部活動地域移行進んでいるのに、枚方は遅すぎる」とあまりの市教委の部活動地域移行の動きが進んでいないことに怒りの声も少なくありません。

市教委 予想されていたのに、今年も「学校で何ができるか検討を」

職場の生の声、聞けば聞くほど深刻、学校で何とかできる事態なのか！！

「ボロボロになるまで、この仕事を続ける値打ちがあるのか疑問におもってしまう」

「定年延長で60過ぎたら給料が7割に、同じ仕事・責任なのになぜこんな中で続けないといけないか疑問」

「教員不足が広がり困難な対応が多い中、先生たちが何とか支えているが、学校の中がピリピリしている」

「講師で枚方より他市を選ぶ人をよく聞く。交野では先生休んでもすぐ代替来ている。なぜ枚方は…」

「ケアを手厚くと、増やした不登校、支援教育など支援員が人が足りていない、結局その分も先生で対応」

あまりの多忙と、教員不足の付けを負わされる毎日の中で、このような声も、職場の先生から聞かれます。必死で現場を支えている先生たちには、「こんなに困難な中、何とかしようと頑張っているのに、このことをわかってもらえてると思えない気持ち募るばかりです。

今年も教員不足なのは予想されていたにもかかわらず、市教委は昨年と同じ「学校で何ができるか検討を」。現場から聞こえる生の声からは、学校で何とかできる事態でないことは明らか。

教員確保、配置の責任は、学校の現状は明らかに市教委がコントロールできない状態に陥っています。必要なのはさらなる学校の工夫や努力ではなく、市教委からの負担軽減策、学校への具体的な支援策です。

11・27「全国一斉定時アクション」

#1127 定時アクション #黙っていても変わらない #せんせいふやそう

「定額働かせ放題」とも批判される「給特法」。先生たちの働き方が大変になり、教員確保さえ困難になる中、文部科学省は中教審の教員確保特別部会で、教員処遇の見直しの検討を進めてきましたが、結局、教職調整手当を4%から13%引き上げを目指すことをはじめとした方針で、今年度内の法制化、予算化に向けて動いています。

このままでは、教員不足や多忙化はますます深刻になってしまいます。

枚方教組も加わる全教(全日本教職員組合)では、抜本的な解決のために、教員定数増、少人数学級拡大や残業代支給などの法的な歯止め創設を求めています。

11・27「定時退勤アクション」で職場にも、市民向けにも声をあげよう

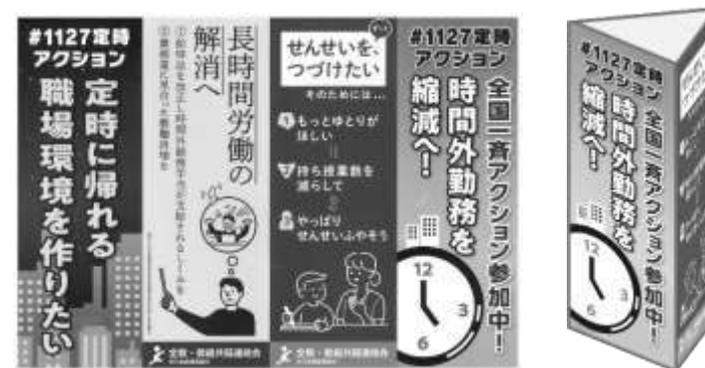
教員処遇問題は、教職員のみならず、子どもの教育条件とも密接にかかわる問題です。困難に直面している教職員自身がつながりあい声をあげていくことと、保護者や市民向けにも声をあげて、アピールしていくことが重要です。

すでに、6月2日には府下各地とともに枚方市駅で宣伝行動を、10月5日には給特法見直し全国集会と上本町での宣伝行動に取り組んでいます。

11月27日(水)には「定時退勤アクション」として、職場向けや市民向けにアピールする取り組みを行います。

「勤務時間は5時まで」をアピールして、今の働き方や給特法の在り方、教員定数、少人数など教育条件の在り方を、教職員全体で考える機会とするとともに、市民的にもアピールできる取り組みにしたいと考えています。

「三角柱ミニポテッカラー」をはじめとしたチラシなどで呼びかけていきましょう。



西谷文和さん「ガザ、ウクライナ、万博一戦争と政治のウラを読み解く」 10/25(土)教育の集い大阪・全体会

10月25日(土)に、岸和田市の波切ホールで、教育のつどい大阪・全体会として、西谷文和さんの講演会が開催されました。

自ら、イスラエルはガザの紛争地域に入り、激しい戦闘の様子やその中で苦しむ人々の姿、平和な生活を願う人々の切実な声を伝えてもらえました。

「いったん武力衝突になれば、毎日多くの人々が犠牲になる事態を、なかなか止められない。武力を強めることで国を守るのは不可能、平和的な外交関係、衝突を回避し、紛争を解決するための話し合いの関係づくり子を重要」と述べておられました。



「部分最適」に落とし穴、学校に必要な「全体最適」

過剰な授業・教科指導（研究活動や公開授業など）への重みづけに注意

赤坂真二・上越教育大教授「アクティブ・ラーニングを阻害する「部分最適」という病」

学校が持つ「部分最適」に偏りやすい体質

上越教育大の赤坂真二さんは、現行学習指導要領実施の以前から、「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」）を学校に広めていくうえで、「学校教育が元来「部分最適」に偏りやすい体質」であることを指摘。

「今の学校教育のあり方を見ていると、この全体最適の発想に欠ける事例をしばしば目にします。今、学校教育が窮地に立たされているとしたら、この部分最適体質がその一つの要因になっていると考えています」と強調しています。

過剰な「部分」への重みづけ

そのうえで、学校の教育活動や子どもの状況の全体よりも、「それぞれの部門の最適化」中心に考えて進んでいってしまう「部分最適の落とし穴」に注意が必要と強調しています。

その象徴的なものとして、「過剰な授業、教科指導に対する重みづけ」を上げ、「研究活動」「公開授業、研修会」などへ力を集中し、生徒指導困難校など学校の課題にかみ合わない分野に学校の時間や労力が注がれることへの懸念を述べています。

学校では、学級経営、生徒指導だけでもきわめて多種多様で膨大な対応があります。しかもそのような毎日の生活にかかわる対応や、子どもとの信頼関係、子ども同士の良好な関係性が根底にあって、授業や学習活動が展開されているのはだれもが実感しています。

「教師の業界の価値観」が大きな影響

赤坂教授は、このような傾向に陥りやすい学校の構造として、学校や先生たちが、研究発表、研究活動、研修などで「教師の業界の価値観が物差しになり、どう評価されるかが重要な関心事」になりやすい点を挙げています。

委員会の方針、新しい授業の取り組み方針、枚方スタンダード、研修や研究活動の外部指導者の示す視点が、大きな影響を与えているといえます。

学校に求められる「全体最適」の視点

全体最適とは、システムや組織全体の最適化を図って目的を達成しようとするものです。企業などの組織経営などでも、部分最適だけでなく全体の活動が良好な状態となるよう、絶えず部分、部門の活動のバランスを、その時々企業を取り巻く状況や組織の状況全体を考えながら進めていきます。

そのうえで赤坂教授は、次のように締めくくっています。

「ひたすら腕力を付ければ健康になるというものではありません。また、休養だけでも健康になれません。子どもたちの社会人として生きる力を見据えることなくして、一部分の能力だけを磨き上げることは、健康を考えずひたすら筋トレをするようなものです。子どもたちを本当に幸せにしようと思うなら、学校教育も全体最適の発想に立つべきです。」



枚方母親大会講演会

「教育はいったい誰のものなのか」

齊加尚代さん MBS 報道局ディレクター

映画「教育と愛国」監督

11月30日(土) 13:40

枚方市総合文化芸術センター別館

(旧メセナひらかた) 2階 メセナホール

「学校はどうしてこんなに息苦しくなったのか」

「授業で使う教科書の内容がどんな人たちの力によって左右されているのか」「一体教育はだれのものなのか」今の大阪の現状を踏まえて、語っていただけます。

どなたでも参加できます。当日参加歓迎！



2024枚方教組 秋の交流行事「大人の遠足」

宇治のまち「光る君」巡り

& 中書島「伏見銘酒・商店街巡り」

11月23日(土)10:00京阪宇治駅改札集合

1. 宇治のまち「光る君」巡り 源氏物語ミュージアム、大河ドラマ「光る君」展

2. 書島・黄桜カッパカントリー・ランチ

3. 「伏見銘酒巡り」「伏見商店街巡り」 グループ・個人で散策

昼食大人1000円、子ども500円（お子様弁当）申し込み QR⇒



あなたも全教・枚方教組へ

日頃から組合のニュースなどで、重要な情報や、権利・制度の内容を皆さんに届けたり、組合で集まって、どうやって教育条件や働く条件を向上させていくかを話し合っ取り組んできています。

どこの学校でも、どの先生も悩みや困難を抱えながら仕事に向き合っておられます。

力を合わせて、互いに支えあいながら、目の前の状況を変えていくために一緒に組合に入って、交流したり、声を上げていきましょう。

ぜひたくさんの方に、全教・枚方教組へ加入を呼びかけます。

講師の先生も加入できます。

組合紹介パンフ、加入申し込みはこちらから ⇒

